



「ひまわりのたね」だより



梅野よしみ 保育士

■ ゆっくりと言葉を増やそうね。

「暑すぎて家の中ばかりなのであそびに来ました」と、暑い中やって来た親子。「暑いですね」と、お母さん同士の挨拶が飛び交っています。私が子どもにも「暑かったね」と声をかけると、この人は誰？何を言っているの？と考えるようにジーンと顔を見られます。慣れてくるとその時間も短くなり、笑顔で応えてくれます。

最近は赤ちゃんの利用が多く、言葉が出ないのでアイコンタクトでコミュニケーション。寝返りやお座りができるようになると、ご機嫌の時は喃語（なんご）が出やすくなり、驚くような大きい声を出すようになりました。

発達相談の先生から、子どもの中であそぶことを勧められ「ひまわりのたね」を利用される方もいます。言葉の代わりにジェスチャーで自分の気持ちを伝えようとする子や、中庭では開放感もあるのか、座る場所を指さし「ママ、ここ」と、2語文が出はじめる子もいます。

子どもたちと接していると、言葉が出なくても子どもの伝えようとする気持ちは、十分わかります。だからこそ、私たち大人が先回りして行

動してしまうと言葉を発する機会を失うことがあることも知っておかなければと改めて思っています。環境やお友だちと関わる中でゆっくりと言葉を増やしていくことでしよう。今月は、子どもたちに開放感を味わって欲しいとプールあそびを計画しています。



お友だちになったよ～

子育て支援センター
「ひまわりのたね」

【開館】月～金曜日 9～16時
【場所】総合福祉センター
「ひまわりの里」内
【対象】0歳から未就学の子
もとその保護者
※利用には保護者の付き添い
が必要です
【利用料】無料